
shooting star

有菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

shooting star

【ノード】

N0792A

【作者名】

有菜

【あらすじ】

石田君をお兄ちゃんに重ねてしまう。優しいから・・・。石田君には嘘はつけないな・・・。空を見ると、星が一つ流れていった。

田羅口。

今日は今朝からお天気が凄く良かつた。

特に予定もなかつたので、買出しつつここで散歩をしようとした。外に出た。

今日はちょっと遠めのスーパーで適当に買出しを済ませ、店を出た。

「織姫ーー。」

「あ、たつきちゃんさんーー。」

外に出て声のする方を見ると、たつきちゃんがいた。

「買い物? 納豆にねぎに味噌・・・。今度は何作んの?」

「えっとね、納豆は朝ご飯ごみじで毎日買つて。それで後はお味噌汁用に買つてきたんだよ。たつきちゃんは、どうしたの?」

「ああ、あたしはその本屋に用があつてね。あとちづるといいかも。あ、そうだ。織姫お昼一緒に食べに行こうよ。この近くですか? ごく美味いって評判の店があるんだ」

「うんー早く行こー。」

あたしたちは近くのレストランに行つた。

「あー、噂通り本当美味しかったねーまた今度行こうー。」

「そうだね。じゃあ、あたしそれからひづること」行くかい。姫、気を付けて帰るんだよー。じゃあね。また明日ねー。」織

「うん。ありがと。また明日ねー。」

そのまままたつわわちゃんと別れて家に帰った。

夕食を食べ終え、部活で使う裁縫道具の整理をしていた。

「あ、そういえば糸切れてたんだつけ」

近くのお店まで20分かかる。

良かつた。

まだ閉店時間まで時間はある。

ゆっくり歩いても間に合ひ。

でも早めに行つた方がいいと思ったので早足でお店まで歩いていった。

お店を出ると、夜空に無数の星が輝いていた。

「わー、綺麗ー。」

無数の星に見惚れながら、のんびり歩いていった。

「あれ、井上さん？」

聞き慣れた声がして、前を向いた。

するとそこには石田君がいた。

「あ、石田君。こんな夜にビーフしたの？」

「ちょっと買い物に。強いて言えば、この24時間営業の洋裁店チーン『ヒマワリソーアイング』に突然行きたくなつたから、ここへ辺の支店に行つていただけのこと。井上さんこそどうしたの？」

「糸が切れてたのさつき気が付いて、買い足しに行つてたんだよ。それにしても今夜の空は星が凄く綺麗だね」

「うそ。そうだね」

夜空を見ていると、星が一つ流れたような気がした。

「い、石田君。今星が流れなかつた？」

「いめん、見てなかつた」

途端、さつきの流れ星は幻覚でないことが分かつた。

「石田君、凄いよ凄いよー流れ星ー！」

「久しぶりに見るね。本当凄いね

「早くお願ひしなきやー！」石田君は何かお願ひするの？』

「え、僕はえーっと・・・い、井上さんは？」

石田君が焦つているところを見るのはじめて見た。

何か凄いことでもお願ひするのかな？

「あたしは・・・やっぱ秘密ー！」

石田君は笑っていた。

あたしもつられて笑つた。

「井上さんの願い事、叶つといいね」

石田君は優しくあたしにそういった。

お兄ちゃんみたいに

。

「もう遅い時間だから家まで送るよ。一人じゃ危ないし」

「ありがと」

本当は』のまま別れなくなつた。

心細かつた・・・。

石田君に『送つてあげる』って言つてもうえて嬉しかつた。

心細さや不安が一瞬でなくなつた。

「あ、そうこえは、あと少しで期末テストだね。お互に頑張りうわ

「やういえはそつだつたね。いい点取れるよつて頑張りうわ

流れ石田君。

焦りもしないなんて。

また学年一位かな？

凄いなあ。

・・・流れ星は流れ続けていた。

いろいろ話しているうちにあつとこつ間に家に着いた。

「石田君、ありがと。おやすみ！また明日ね。」

「うん。おやすみ

家に入り、買って来た糸をしまおうと、袋に手を入れた。

すると、中に何か入っていた。

・・・紙切れだった。

開いてみると、そこには『今日元気なかつたね。何があった?』と

書いてあった。

石田君には分かっちゃったんだ。

あのつくり笑顔も。

石田君に嘘はつけないな。

「ありがと、石田君・・・」

あたしがお願いしたのはね・・・『こつまでも』こんな幸せが続きますよ!!』

(後書き)

あとがき

初! 雨織です! 今回は織姫の位置からの設定にしてみました。流れ星をメインにしてみました。次は雨竜の方からにしてみようかな?・?

ブラウザを閉じてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0792a/>

shooting star

2010年12月18日14時29分発行